



【秋田県版】
No. 370
2022年4月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫
〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4

秋田県本部

〒014-1413
秋田県大仙市角間川町
字東中上町27
最上健造 方

TEL&FAX
0187-65-2115

署名、会員拡大 4月は正念場

知恵と工夫と努力を発揮し必ず前進を！

「コロナ禍」や「地方選挙」が重なり、署名や会員拡大が遅れています。

会が段取りをとって、行動を起こしましょう。

国会請願は5月11日です。現状では、せっかく「紹介議員」となってくれた秋田県選出の3人の議員さんや社民党の議員さんに、わずかな署名しかお渡しできません。

★4月から新年度です。会費を納めてもらうよう働きかけを開始しましょう。

すべての会員さんに署名用紙を渡し、協力団体への呼びかけを急ぎましょう。

★地方選挙Ⅱ国賠同盟会員候補等の全員当選に応援をつよめよう

★「ウクライナ侵略」反対に、できる活動を行いましょう。

「2万人同盟めざす特別期間」が早一カ月が過ぎました。5人、10人拡大にチャレンジするとともに、役員



手製のポスター（上）
を手にスタンディング
する大曲仙北支部の仲間
＝3月26日、イーストモル

3月26日（土）午前、国賠同盟大曲仙北支部は、共産党仙北地区員会、党女性後援会と一緒に「ロシアのウクライナ侵略やめよ」をアピールするスタンディングを二カ所で行いました。10人が参加しました。一カ所目は「イオン」、二カ所目は「イーストモル」のショッピングセンター前で、買い物客やドライバーに向けて、ポスターを掲げて訴えました。同盟支部は、「NO WAR」と書いた手製のウクライナ国旗をつくりました。

大型トラックの運転手さんなどが、手を振ってこたえてくれました。

同盟運動の目的

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
 - 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
 - 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

「不屈」再録シリーズ⑬

県版「不屈」21号（1993年2月）より

《資料》

「特高月報」

「秋田県下に於ける治安維持法違反事件の取り調べ状況」から

大館・北秋田郡の運動について

紹介する資料は、昨年3月、同盟秋田県本部に入会された東京在住の岩沢新吉さん（大館市出身）から送られてきた「特高月報」のうちの県北地方に関係する部分からです。これは、弾圧執行の先兵となった特高警察の側から見たものです。したがって資料として参考にしても、これを下敷きにして当時の歴史を書いたりすることは正しくないと思います。

近江谷昭二郎

客年十月五日検挙に着手した秋田県下における治安維持法違反事件は（十月報参照）その後鋭意取調中なりしが種市健及び中川篤二郎を中心とする県北地方（北秋田郡）における文化活動はいずれもその合法場面を利用して共産主義思想の普及浸透を図り持つて日本共産党組織の素地たらしむべき目的を持って活動し、

県南地方における堀川清弘、斎藤孝輔、佐藤弥太郎等を中心とする無産議員団結成運動及び文学運動はコミンテルンの新方針に基づき所謂人民戦線の結成を目指して組織及び啓蒙活動を為しつつありたる事実明瞭となりたるを以て、客年十二月八日種市健外五名を、同月二十二日工藤士郎外六名を各々送局せり、因みに運

動の概要左の如し。

（一）県北地方（北秋田郡）に於ける運動状況

県北地方における左翼運動は従来より主として労働運動及び文学運動の分野より非合法運動に進展しつつありしが、同地方に於ける中心的指導分子種市健は昭和九年七月全協関係事件にて懲役二年に処せられたるが刑の執行猶予の恩典に浴し出獄するや、原価の社会情勢下にありては非合法運動は発展性なしとして、文化の全分野に於いて運動を展開しその合法性を利用して一般大衆に共産主義意識を普及せしむべく企図し、種市健・村上篤二郎とともに所謂文学青年を結集してプロ文学研究会を組織してこれを啓蒙し、あるいは同人雑誌を発行する等活発なる運動を展開するに至りたるが、昭和十年頃より文学、映画等の分野において極めて巧妙に合法を偽装して運動しつつありたる中川篤二郎党と連絡し爾来相提携して県北地方における運動を指導しつつありたり。

1 種市健を中心とする運動

田與次郎、小笠原五左衛門、村上勇、成田卯八等を獲得して社会科学研究会を組織し、翌年二月頃までの間十数回に亘り研究会を開催し河上肇著「第二貧乏物語」等をテキストとして社会科学の研究を為し会員の意識の昂揚を図れり。

（ロ）映画の鑑賞並批判座談会を通じての活動

中川は映画の合法性を利用し意識の啓蒙を図ると共に之を通じ左翼分子を結集し文化団体の母体たらしむべく昭和七年頃同志を糾合して鷹巣町劇場に上映せられたる「人生案内」と題するソ聯の文化映画を鑑賞せしめ其の後寺田為二、小笠原五左衛門、安部正等とソ聯製映画の芸術的価値を賞揚して共産主義思想の昂揚を図り、昭和十二年十一月頃島山忠光外十数名の進歩的分子を勧誘して大館町常盤座に於て上映せる映画「古城の篇」を開催して階級的立場より映画を批判し、プロレタリア芸術の重要性を説明し、之を機会に映画鑑賞会を組織すべく種々協議を重ね更に昭和十三年三月中旬頃大館町に於て映画「失はれた地平線」の座談会を開催し、麻生俊二、村上篤二郎ほか十数名の左翼分子を勧誘参加

（イ）プロレタリア文学研究会

種市健は賞は十年五月頃当時大館図書館に出入りしつつありたる、年代表喜男、工藤士郎、岩沢新吉、斎藤良夫、等の進歩的文学愛好者を糾合して「プロレタリア文学研究会」を組織し、翌年四月頃までの間において毎週一回及至四回位定期的に会合して日本プロレタリア文学史を講述し、社会主義的リアリズムの正当性を強調して意識の昂揚を図りたり。

（ロ）大館ペンクラブの結成

昭和十一年四月頃より前記「プロレタリア文学研究会」が無活動の状態に陥りたる為、種市は同年十二月文学愛好者斎藤良夫、鳴海正一、安永正巳外数名を糾合して「大館ペンクラブ」を結成し、る座談会を開催し常時文学の分野において問題となり居りたる「社会主義的リアリズム」対「唯物弁証法的創作法」の両論比較検討し、社会主義リアリズムの正当性を強調して会員の意識昂揚を図るとともに一般大衆を啓蒙すべく機関誌の発行を計画し、種々策動したるが経費其の他の関係より遂に発行不可能となりたるを以て会員の作品は当分北鹿新聞及北鹿朝日新聞に発表することになり、同年十二月

より翌十二年春頃迄之に投稿掲載せしめて広く読者の啓蒙に努めたるも昭和十二年春頃より自然消滅となりたり。

（ハ）同人雑誌「機」の発行

昭和十年十月頃年代喜男、種市健等中心となりプロレタリア文学研究会員及び匹田三郎、村上篤二郎等の文学青年を糾合し同人雑誌を発行して共産主義思想の宣伝を為すべく協賛し、同年十二月プロ雑誌「機」創刊号を発行したるが、岩沢新吉の執筆せる「死刑」と題する創作が安寧を害する虞ありとて所轄警察署より注意を受けたる為身の危険を感じ第一号以下の発行を中止せり。

（ニ）文学座談会開催

昭和十二年六月頃村上篤二郎、種市健、中川篤二郎、工藤士郎、島山忠光其の他数名の左翼分子は、支部や定輔（人民戦線運動関係にて埼玉県に於て検挙目下予審中）を聘し村上宅に於て文学座談会を開催し、渋谷を中心として反ファシズム人民戦線運動等につき批判論議し相互の意識昂揚を図りたるが種市はさらに同年十二月十八日北秋田郡鷹巣町に於て島山忠光、工藤士郎、大川俊男外数名

の左翼分子を糾合して文学座談会を開催し、石坂洋二郎作「若い人」、志賀直哉作「暗夜行路」及映画「祇園の姉妹」等を共産主義的立場より批判し合会者の意識の昂揚を図りたり。

（ホ）「菊見会」開催計画

種市健、中川篤二郎、島山忠光、大川俊男等は昭和十二年十月頃菊見会に名を藉り同志を糾合して時局問題を論議し、之を人民戦線運動の方向に誘導すべく計画し、警察取調を避くる為「鷹巣町つばもの会」の名を利用して県北地方在住の舊同志に案内状を送したるが時局の重圧と取締の危険を感じ之を中止せり。

2 中川篤二郎を中心とする運動

（イ）社会科学研究会

中川篤二郎は農林学校在学中よりマルクス主義文献を繙読すると共に左翼分子と交友し漸次共産主義思想を抱懐するに至りたるが、卒業後新聞記者となるや之が実践運動を企図し昭和六年頃より文学愛好者長谷川晴夫、岩松敬一郎、岩川四郎等を糾合して各自所持するマルクス主義文献を交換しこれを研究しつつありしが同年秋頃新たに福田精三郎、川

新入会員紹介

入会を心から

歓迎します

高橋 雅彦 さん

（秋田支部）

弾圧された23歳の女性

棚橋タノ（佐藤たの）のこと

映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」が完成した。治安維持法の弾圧で、24歳で「獄死」した若き女性党員の不屈の生涯を描いた映画である。
これを期に、秋田県で「戦争と暗黒政治」と闘い抵抗した女性」を見ていきたい。

■棚橋カツについて

秋田県で「闘いと抵抗」の女性として棚橋貞雄の妻・カツがいる。カツについては2021年11月発行の県版「不屈」で紹介した。ぜひ再読してほしい。

■棚橋タノ（佐藤たの）について

今回は、棚橋貞雄の妹「棚橋タノ」を紹介する。

(1) 23歳の「タノ」は「四・一六」弾圧で検挙

棚橋タノは、1929（昭和4）年、「四・一六」事件で、兄嫁・カツ（32歳）と一緒に検挙された。タノは当時23歳だった。（『秋田県警察史』下巻に載っている。県版「不屈」1992年4月号に関係記事＝県版「不屈」2021年9月号「再録」シリーズ⑥で紹介している）
この時、戦後、共産党秋田県委員長となった三浦雷太郎

（22歳）など14名が捕まったが、棚橋カツが32歳の一番年上で、あとの13名は20歳から27歳の青年たちだった。秋田県でも軍国主義、天皇絶対主義と果敢に「闘い抵抗した」のは青年たちだった。
以後「タノ」の活動についてはあまり明確ではないが、判っていることを記す。

(2) 畠山松治郎と結婚し、すぐ離婚

1926（大正15）年8月、兄・貞雄の運動の仲間、八郎鴻の畠山松治郎と結婚した。結婚式は松治郎の実家で盛大に行われた。肉親たちは結婚したら松治郎の運動もいくらか治まるだろうと考えたらしいが、逆にますます激しくなり殆ど家によりつかない。タノは家の人も折り合いがうまくいかず、わずか一カ月ほどで「実家」に帰ったという。（野添憲治の『熱気あふるる

港町』に書かれているという）

(3) 佐藤謙蔵と「再婚」、97歳まで生きる

「タノ」は、兄の貞雄が経営する「秋田木材通信」の記者、「三・一五」で弾圧された有罪となった活動家・佐藤謙蔵と再婚した。文献ではなぜか平仮名の「たの」となっている。夫は終戦直後満州で病死したが、「たの」は子どもたちを連れて帰国し、土崎で暮らし、生涯を終えた。

(4) 「秋田県」発行の本で「半生」を語る

昭和60（1985）年秋田県（青少年婦人課）が「国際婦人の十年」（1976～85年）を記念して、『秋田県婦人生活記録史（上・下）』を発行した。明治から昭和までの秋田県の女性たちの「手記」である。多くは無名の女性であり、苦難と希望の記録

である。

その「下巻」に、「佐藤たの」の『環境にはぐくまれた半生』が載っている。

(5) 国民救援会秋田県本部が佐藤たのさんの逝去を報じた

「国救」秋田県本部は、2005（平成17）年の「救援新聞」（秋田県版）に、佐藤たのさんの逝去を報じ、『秋田県婦人生活記録史（下）』の「手記」の一部を転載した。「救援新聞」（秋田県版）の「手記」の前文は次の通り。
戦前、秋田県の共産党の創立者だった棚橋貞雄（東京大空襲で死去）の妹・佐藤たの（秋田市土崎在住）さんが12月9日97歳で逝去されました。秋田県における三・一五、四・一六事件の生き証人だった佐藤たのさんが『秋田県婦人生活記録史』に執筆した記録を転載し、ご冥福を祈ります。

※なお「救援新聞」（秋田県版）は、国賠県女性部の佐藤操子さんから提供された。

(6) 『秋田県婦人生活記録史』

環境にはぐくまれた半生

佐藤 たの

明治40年3月5日生まれ 旧姓 棚橋
現住所 秋田市土崎港中央一丁目一四一八

私は五人兄妹の次女として平凡な少女時代を過ごしていた。しかし、大正九年五月、全国でも三大騒擾（そうじょう）事件といわれるほどの事件（衆院選の不正をめぐる土崎事件）が起こり、その発起人が当時の村金商店に勤務していた兄棚橋貞雄であるという思いもよらぬこととなった。両親は勿論、港中が大騒ぎとなった。家宅捜査の結果、兄の日誌から計画的にやったことではないことがわかり、二カ月後には釈放された。翌年兄は考えるところがあつて上

京し、明治大学専門部政治経済科に進学した。卒業後十四年一月「秋田木材通信」を創刊し、かたわら社会運動の同志との交流で、多忙をきわめた。争議があれば炊き出しなど、母も私も手伝い、また同志が遠出の時は旅費まで助力してやるという経済力の旺盛な人だった。大正十五年五月一日には、東北で初めてのメーデーを土崎駅前公園から千秋公園まで警官に付き添われて練り歩き、私も赤旗に金糸で鎌と鋸を差し違いにした刺繍をするなどして手伝った。

兄は昭和二年に、秋田赤十字病院の小児科医原城カツと結婚した。同じ思想をもった同志の恋愛結婚だった。同年には土崎に小児科医院を開業し順調だったが、翌年に三・一五事件で、兄貞雄と佐藤謙蔵（私の夫）、平山忠尚の三人が県内で検挙されてしまった。その間、家を守る女たちの苦労は大変なものだった。母は息子を信じ、私は夫を信じてその活動を支えた。これは肉親の愛情であり思想の中心は問題でなかった。

だが私は、そのころから男性を頼らないで生きられるようにならねばと痛切に感じ、秋田市の医師会館内にあった産婆看護婦養成所に聴講生として通い、資格を取った。自立への第一歩だった。

翌年には四・一六事件で党员や早大生二人を交えた七、八人が川尻の刑務所に留置され、兄嫁カツは、屋根裏に活

勅家の学生をかくまった理由で二、三日警察に留置された。黙秘権と断食を決行し、特高警察を困らせたが、相手は拷問して絶対睡眠はとらせないという何よりもひどい仕打ちをしたとのことだった。母も嫁のカツに食事を勧めるため、警察からの要請で説得に行つたが、頑として聞き入れず、さすがの特高もうにもならず、釈放したものと思う。

彼女は、いかに意志強固であつたことか。帰宅直後、急患の往診に断るもせず人力車で出かけるなど男性でも真似の出来ないことばかりで、自分の思想の為には命をかけて頑張り続けた。

翌六年ころから兄嫁カツは結核に冒され、熱海伊豆山に転地療養をしていたが、翌八年には帰らぬ人となつた。

私の夫は何年か秋田木材通信の記者生活をしていたが、戦争の激しくなつた昭和十三年、満州国の協和会職員として北満に行くことになり、家族と共に渡満した。終戦六ヵ月ほどで、盲腸炎で他界した。二十一年六月、十四歳の長男と七歳、四歳の男の子三人と、一人千円ずつしかもち帰れないきまりに従つて帰郷した。

兄は、妻カツの没後三年で再婚したが、昭和二十年三月十日の東京大空襲で死亡、兄嫁は眼科の女医だったので土崎で医院を開業した。私は隣の空き屋敷を借り（現在地）、バラックを建て、生まれて初めての飲食店を開いた。不思議に世間の目は温かく、兄や夫の友人、知人が応援してくれた。全国一斉の飲食店閉鎖

命令が出た時も私は生死をかくして戦い、警官も割とやさしくしてくれて私は恐いもの無しで頑張つた。三年後には、釘やトタン、ガラスなど不足な時に家を建てた。資金も半分しかなく、兄の先輩の建築屋さんに月賦にしてもらい順調に営業することができた。

小幡谷政吉、小畑勇二郎、金子洋文さんらがよく集まつてくれたものだった。

五年後には長男が高校を卒業し、土崎の中央通りに遊技場を開業。翌年には川端五丁目に店を持ち、六年後には店舗を貸して兄弟みんなが希望の大学に入れるまでになった。長男は六年間、若さを犠牲にして働いたが、昭和三十二年に六歳下の二男と共に大学へ進学したのである。

人生は運と努力、事業のやり直しは出来ても、子どもの教育のやり直しは出来ないということを身をもって体験し

感じている。

▼若干の感想

「たの」さんの手記には、自身の検挙や活動のことは書かれていない。また戦後に運動にかかわつたのかも良く分からない。多分、直接的な活動はなかったと思われる。

しかし兄・棚橋貞雄や兄嫁・棚橋カツの闘いを書いてるので、全文紹介した。

なお、「たの」さんの手記の隣には、松田解子の詩『全女性進出行進曲』が掲載されている。『秋田県婦人生活記録史』の編纂にかかわつた女性たちの思いが伝わってくる。

2022.3.26（最上記）

おくやみ

謹んでご冥福を

祈りいたします

鈴木 望さん（89歳）

横手支部 3月26日ご逝去

「治安維持法・戦争・弾圧・反共との闘いと抵抗」

【学習資料】③

放火、暴行、脅迫の極悪連中

引用した文献

★昭和5（1930）年 編者 秘密会議事録編集会
『貴族院秘密会議事録集（下巻）一公安維持に関する件』（昭和5年）

▼貴族院・伯爵 奥平昌恭（おくだいら・まさやす）
「小作争議に矢張り共産党の人が加わりまして、十日間も放火、暴行、脅迫、あらゆることをして居る」。「これらの主義者は最も極悪なる最左翼の連中」

引用した文献

★昭和12（1937）年8月発行「特高教程」青木貞雄著

▼「社会主義共産主義は、わが三千年の光輝ある歴史を有する国体に背反するものがあり、其の運動方法に於いても亦奇矯過激であり、到底わが国家社会の改造原理として取り容れられるべきものではなかった」、

「『日本共産党』の目的は『第三インターナショナル』の指導精神に基づき、当面の目的としては国体の変革と私有財産制度を撤廃してプロレタリアートの独裁政府を樹立することにあり、最後の目的としては共産主義社会を実現するにある。以て我

国に於いては絶対に其の存立のゆるさるべきものではないことがわかる」、「以上の如く『日本共産党』

の主義行動は根本的に我国家を破壊せんとするものにして、一時も之を容認すべからざる重大事犯なりとす」

建国以来前例のない重要な政治犯罪

引用した文献

★昭和3（1928）年4月 帝国議会 衆議院秘密会議事録

「第五十五回議事本会議（共産党事件の報告）」

▼「◎ 国務大臣（原嘉道君）

——我が日本帝国建国以来の基礎を顛覆（てんぷく）する、実に殆ど前古未曾有（みぞう）と言うて宜（よろ）しい重大な政治的犯罪であります」

第33回県本部定期総会（県大会）

とき 7月24日（日）

午後1時30分

秋田市文化会館

第5会議室

「コロナ禍」の収束が見込めないで、参加者や大会分担金は昨年と同じとします。詳しい事は、後日連絡します。

★会員拡大Ⅱ支部の目標達成に全力つくぞう！

学習講演会

「伊藤千代子の生き方と

その時代を学ぶ」

講師 最上健造（県本部会長）

とき 4月18日（月）

午後1時30分

にぎわい交流館

「アウ」研修室1・2

★映画上映成功のためだけでなく、会員拡大にも「お役にたてば」と秋田支部が計画しました。各支部からの参加を歓迎します。

今年の秋田県多喜二祭賞は「秋田市新屋勝平地区振興会」と「イージスアショアを考える勝平の会」の2団体に贈られました。

反対運動に頑張った私としても喜びに堪えません。また反対運動は、民主団体

共同の運動としても大きな力を発揮しました。私もその一員として、

署名、募金、宣伝、地方議会への要請に頑張りました。毎週思い思いのプラカードを作ってスタンディング、スピーチに参加しました。

沖縄の知事選挙応援に、沖縄に行った時も、署名を訴えました。

秋田県を第二の沖縄にしてはならない、アメリカ言いなりの軍事基地にしてはならないの思いでした。「軍事基地」は私たちの味方ではありません。

ません。

秋田県でも市民運動の奮闘、

「秋田さきがけ」の報道、さらに説明会での防衛省職員の

居眠りへの怒りなどで、流れが変わっていきました。

秋田駅前の夕方行動・スタンディングでは、たった二人の時もありました。吹雪の日

手記

イージスアショア反対に頑張りました

秋田支部 佐藤操子

も横断幕をもって立ち続けました。ドイツのマスコミが取材にきたこともありました。

官沢賢治の詩「雨にも負けず、夏の暑さにも負けず……」を思い出しながら

すべてのスタンディングに立ち続けた私がいました。政府が新屋地区への配備計

画撤回を表明してから、一年半も過ぎた昨年12月23日夜、

勝平コミュニケーションセンターで、防衛省の「説明会」が行

われました。山口県では五回も説明会が開かれているのに、

秋田県はたった一回でした。それも地元住民の声にはまったく答えない、不誠実な態度

に終始しました。形だけの説明会に、私は気持ちのやり

どころがない怒りを覚えました。でも政権の乱暴

なやり方を撤回させた運動に全力で

参加したことは、私の大きな誇りと喜びになっています。

映画

「わが青春つきるとも

―伊藤千代子の生涯―

県内最初の上映会のお知らせ
とき 6月15日(水)
午後3回上映予定

ところ 秋田市文化会館
小ホール

料金 一般前売1000円
(当日1300円)

主催 上映実行委員会
代表・工藤一紘
(県多喜二祭実行委員長)

※国賠同盟県本部会長は「事務局長」を仰せつかっています

★さらに大館市、能代市、大仙市でも実行委員会をつくり上映する予定です。

秋田以外の方は「試写会」としてのためにありますので多数参加されるよう訴えます。

